



能登半島地震災害からの復興半ばで発生した記録的豪雨により甚大な被害を受けた能登地方で、社協・NPO・行政が連携した被災地支援を行いました。

平成30年7月豪雨災害を経験した本市では、行政だけでなく、社会福祉協議会、NPOやボランティア、企業や個人などの協働によって、被災者に寄り添った復旧・復興を進めてきました。この経験を踏まえ、これまで受けた支援に対する「恩送り」として、社会福祉協議会、NPO、行政などの協働による能登地方への被災地支援を行っています。

定期的に行っている情報共有会議（牛鬼会議）で、石川県輪島市や珠洲市などで被災地支援を行っている団体や現地の社会福祉協議会からの情報が共有され、被災地の人たちが求めていることに対しそれぞれができる支援について検討し、社会福祉協議会、NPO、行政の協働による支援を行いました。

支援内容：炊き出し、支援物資の運搬、被災家屋の土砂出し、復旧作業に必要なスコップや高圧洗浄機、消毒液などの提供、嗜好品やみかんの寄付、被災地への募金活動 など



甚大な被害を受けた能登地方では、1日も早い復旧・復興に向けた取り組みが進められています。そのような中、本市でも多様な主体が連携しながら「できる人ができる時にできること」を行っています。こうした意識を持つことで、災害時だけでなく普段から目の前にある地域課題の解決につながり、「すべての人が住みやすい宇和島市」の実現につながっていきます。